

7. 稲葉憲之、大島教子、西川正能、岡崎隆行、庄田亜紀子、根岸正実、林田志峯、稲葉未知世、和田裕一、喜多恒和、外川正生、塚原優己、名取道也、牛島廣治、戸谷良造、五味淵秀人、尾崎由和、吉野直人、早川智、田中憲一、熊曙康. 周産期における HIV/エイズ、その現状と対策—厚労省研究班の成績をもとに— (『今月の臨床 性感染症 up to date』 6、性感染症への対応と治療) 臨床婦人科産科 2009 ; 63 : 151-155
8. 和田裕一、蓮尾泰之、喜多恒和、塚原優己、外川正生、吉野直人、稲葉憲之. 我が国における HIV 感染妊婦への対応. 日本臨床、2010 ; 68 : 450-455
9. 喜多恒和. II. 感染症、4. HIV. (増刊号 産婦人科検査マニュアル). 産科と婦人科、2010 ; 77 : 50-55
10. 谷口晴記、外川正生、喜多恒和、大島教子、伴 千秋、中西美紗緒、細川真一、蓮尾泰之. 第 23 回日本エイズ学会シンポジウム記録 HIV 母子感染予防対策の成果・そして課題. 日本エイズ学会誌、2010 ; 12 : 94-98
11. 水主川純、定月みゆき、五味淵秀人、箕浦茂樹、松下竹次、木村昭夫. 母体搬送の「社会的側面」を考える 当院へ直接搬送された妊産婦の実像. 臨床婦人科産科、2010 ; 64 : 98-102
12. 水主川純、定月みゆき、中西美紗緒、兼重昌夫、細川真一、赤平百絵、松下竹次、箕浦茂樹. 経済的社会的問題を抱えた妊婦の周産期予後と支援の現状に関する検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌、2010 ; 46 : 1094-1096
13. 水主川純、定月みゆき、中西美紗緒、兼重昌夫、細川真一、赤平百絵、松下竹次、箕浦茂樹. 妊婦健康診査未受診妊婦に関する問題点とその対応策. 日本周産期・新生児医学会雑誌、2010 ; 46 : 1160-1162
14. 水主川純、定月みゆき、中西美紗緒、箕浦茂樹. 梅毒感染妊婦 7 例の周産期予後に関する検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌、2010 ; 46 : 1263-1266
15. 水主川純、定月みゆき、中西美紗緒、兼重昌夫、細川真一、赤平百絵、松下竹次、箕浦茂樹:未治療の梅毒妊婦から出生した先天梅毒児の 1 例. 日本周産期・新生児医学会雑誌、2010 ; 46 : 106-109
16. 佐久本 薫. HIV 母子感染予防の現状と課題 —性の健康週間に寄せて—. 沖縄医報、2010 ; 46 : 1152-1155
17. 鈴木さき、佐久本 薫、他 8 名. 当院における絨毛膜羊膜炎症例の検討. 沖縄産科婦人科雑誌、2010 ; 32 : 3-7
18. 松田秀雄. 産科における超音波診断—妊娠中・後期(胎児の正常超音波像と形態異常 3) 胸部の超音波像—肺・胸部. 臨床婦人科産科、2010 ; 64 : 595—597
19. 松田秀雄. 産科における超音波診断—妊娠中・後期(胎児の正常超音波像と形態異常 7) 全身の異常所見—胎児水腫・無心体. 臨床婦人科産科、2010 ; 64 : 619—621
20. 松田秀雄. 胎児画像診断 : 3 D 技術の臨床応用. 映像情報メディカル、2010 ; 42 : 508-511
21. 松田秀雄. 周産期医療と胎盤—最近の話題 : —胎盤の物質輸送と通過性— 細菌・ウイルス. 周産期医学、2010 ; 40 : 1063-1066
22. 和田耕治、太田 寛、川島正敏. 企業におけるリスクに応じた新型インフルエンザ対策. 健康開発、2010 ; 4 : 17-23
23. 和田耕治、太田 寛、川島正敏、阪口洋子、相澤好治. 新型インフルエンザから

- 学ぶ包括的な感染症対策. 保健医療科学、2010 ; 59 : 94-99
24. 和田耕治、太田 寛、阪口洋子. 特集 : パンデミックインフルエンザ 公衆衛生の立場から. 日本臨牀、2010 ; 68 : 722-726
25. 和田裕一、喜多恒和. 特集 母体感染症 up to date - ヒト免疫不全ウイルス (HIV) - 周産期医学 2011 ; 41 : 211-216
26. 浅野真、宮澤豊. HIV 感染. 産婦人科の実際 2011 ; 60 : 1633-1637
27. 中西美紗緒、水主川純、定月みゆき、箕浦茂樹. 当院における HIV 感染妊婦 37 例の臨床的背景と周産期予後の後方視的検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2011 ; 47 : 73-77
28. 中西美紗緒、田沼順子、本田美和子、五味淵秀人、菊池嘉、岡真一、箕浦茂樹. 当院における HIV 母子感染予防対策を逸脱した症例の問題点と今後の課題. 日本エイズ学会雑誌 2011 ; 13 : 26-31
29. 水主川純、箕浦茂樹. すべての救急医療従事者必須の未受診妊婦への対応. EMERGENCY CARE 2011 ; 24 : 60-64
- 和文その他
1. 喜多恒和. HIV 感染妊娠の最新情報. 日産婦医会報 2011 ; 63 : 10-11
 2. 塚原優己、阿部真理子、喜多恒和、高田知恵子、佐久本薫、大金美和、外川正生、吉野直人、稲葉憲之、和田裕一. 女性のセクシャルヘルスと HIV 感染
Medical and Social Consideration of HIV/AIDS as Women's Health Care. 日本エイズ学会誌 (第 24 回日本エイズ学会シンポジウム記録) 2011 ; 13 : 120-124
 3. 塚原優己、谷口晴記、大金美和、井上孝美、山田里佳、源河いくみ、辻麻理子、沼直美、内山正子、渡邊英恵、佐野貴子、今井光信、松岡 恵、矢永由里子、小林裕幸、高田千恵子、山田由紀、名取道也、山口晃史、今場清子、喜多恒和、和田裕一、外川正生、吉野直人、蓮尾泰之、岩室紳也、五味淵秀人、源名保美、寺内幸恵、小澤あかね、森 尚義、稲葉憲之. 平成 22 年度 HIV 母子感染予防対策マニュアル第 6 版. 2011
- シンポジウム・特別講演
1. 松田秀雄. (シンポジウム) 母子感染における最近の知見. 日本産科婦人科学会, 2009.4.
 2. 喜多恒和. (特別講演) 性感染症について. 川越市立養護学校保健講話, 2009.9. 川越.
 3. 喜多恒和、吉野直人、外川正生、塚原優己、大島教子、稲葉憲之、和田裕一. (シンポジウム) HIV 母子感染予防対策の成果. 第 23 回日本エイズ学会学術集会, 2009.11. 名古屋.
 4. 喜多恒和. (シンポジウム) 妊娠と感染症～性感染症について知り、母子感染を防いで元気な赤ちゃんを産むために～
 5. 喜多恒和. (シンポジウム) 妊娠と感染症～性感染症について知り、母子感染を防いで元気な赤ちゃんを産むために～
2. HIV 感染症と妊娠～我が国の最新の状況と問題点～ 1) 産科医の立場から. 日本性感染症学会・日本エイズ学会合同シンポジウム, 2009.12. 京都.
 6. 喜多恒和. (特別講演) 性感染症について. 川越市立富士見中学校保健講話, 2009.12. 川越.
 7. 喜多恒和. (特別講演) 性感染症と HPV ワクチンについて. 川越市立名細中学校保健講話、川越 2010 年 7 月
 8. 中西美紗緒. 女性と HIV 感染症. 生ま

れてくる子どもたちのために、2010 AIDS 文化フォーラム in 横浜 平成 22 年度厚生労働省科学研究費（エイズ対策研究推進事業）研究成果等普及啓発事業 HIV 感染妊婦とその出生時の調査・解析および診療・支援体制の整備に関する総合的研究 研究成果発表会、横浜 2010 年 8 月

9. 喜多恒和、吉野直人、外川正生、塚原優己、稲葉憲之、和田裕一。（シンポジウム）女性 HIV 陽性者の妊娠・出産に関わるヘルスケア—わが国の HIV 感染妊娠や母子感染の現状と問題点—。第 24 回日本エイズ学会学術集会、東京 2010 年 11 月
10. 喜多恒和。若者の性感染症、子宮頸がん、そして HIV 母子感染。若い女性の子宮頸がん—ヒトパピローマウイルス(HPV)とワクチン—。平成 22 年度厚生労働省科学研究費（エイズ対策研究推進事業）研究成果等普及啓発事業 HIV 感染妊婦とその出生時の調査・解析および診療・支援体制の整備に関する総合的研究 研究成果発表会、奈良 2010 年 11 月
11. 中西美紗緒。若者の性感染症、子宮頸がん、そして HIV 母子感染。わが国の HIV 感染妊娠の現状と母子感染予防対策—全国調査結果—。平成 22 年度厚生労働省科学研究費（エイズ対策研究推進事業）研究成果等普及啓発事業 HIV 感染妊婦とその出生時の調査・解析および診療・支援体制の整備に関する総合的研究 研究成果発表会、奈良 2010 年 11 月

一般発表

1. 清水泰樹、喜多恒和、井上孝実、岩田みさ子、小林裕幸、佐久本薫、高野政志、中西美紗緒、松田秀雄、箕浦茂樹、宮崎泰人、吉野直人、高橋尚子、金子ゆかり。

感染した妊婦さんの実態と産科における対応。主催：財団法人エイズ予防財団「平成 20 年度厚生労働省科学研究費（エイズ対策研究推進事業）研究成果等普及啓発事業」「周産期・小児・生殖医療における HIV 感染対策に関する集学的研究」研究成果発表会(仙台)，2009.1. 仙台。

2. 宮崎泰人、喜多恒和、井上孝実、岩田みさ子、小林裕幸、佐久本薫、清水泰樹、高野政志、中西美紗緒、松田秀雄、箕浦茂樹、吉野直人、高橋尚子、金子ゆかり。感染した妊婦さんの実態と産科における対応。主催：財団法人エイズ予防財団「平成 20 年度厚生労働省科学研究費（エイズ対策研究推進事業）研究成果等普及啓発事業」「周産期・小児・生殖医療における HIV 感染対策に関する集学的研究」研究成果発表会(佐世保)，2009.2. 佐世保。
3. 清水泰樹、喜多恒和、宮崎泰人、綾部琢哉、松田秀雄、岩田みさ子、箕浦茂樹、佐久本薫、塚原優己、稲葉憲之、和田裕一。本邦における HIV 感染妊娠の動向と母子感染予防対策の現状。第 61 回日本産科婦人科学会学術講演会，2009.4. 京都。
4. 蓮尾泰之、明城光三、林 公一、塚原優己、喜多恒和、谷口晴記、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。我が国における妊婦 HIV スクリーニング検査普及状況と陽性患者受け入れ体制。第 61 回日本産科婦人科学会学術講演会，2009.4. 京都。
5. 谷口晴記、塚原優己、井上孝実、山田里佳、大島教子、林 公一、蓮尾泰之、佐久本薫、早川 智、喜多恒和、稲葉憲之、和田裕一。HIV 母子感染予防対策マニ

- ュアル改訂時の検討項目と今後の課題。第 61 回日本産科婦人科学会学術講演会，2009.4. 京都。
6. 吉野直人、喜多恒和、熊谷晴介、丹野高三、伊藤由子、高橋尚子、外川正生、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。過去 10 年における妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の推移。第 27 回日本産科婦人科感染症研究会学術講演会，2009.6. 宇都宮。
 7. 喜多恒和、吉野直人、外川正生、高橋尚子、金子ゆかり、田口彰則、綾部琢哉、箕浦茂樹、中西美紗緒、松田秀雄、高野政志、岩田みさ子、小林裕幸、佐久本薫、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。わが国における HIV 感染妊娠の動向と母子感染予防対策の現状。第 27 回日本産科婦人科感染症研究会学術講演会，2009.6. 宇都宮。
 8. 谷口晴記、塚原優己、井上孝実、山田里佳、大金美和、辻麻里子、内山正子、渡辺英恵、源河いくみ、外川正生、喜多恒和、稲葉憲之、和田裕一。HIV 母子感染予防対策マニュアル第 5 版改訂時の検討項目および今後の課題。第 27 回日本産科婦人科感染症研究会学術講演会，2009.6. 宇都宮。
 9. 吉野直人、喜多恒和、熊谷晴介、丹野高三、伊藤由子、高橋尚子、外川正生、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。妊婦に対する HIV スクリーニング検査実施率の推移および他の感染症検査と比較。第 22 回エイズ学会学術集会，2009.11. 名古屋。
 10. 小林裕幸、松田秀雄、阿部信次郎、塚原優己、喜多恒和。妊娠中・産褥期のロピナビル・リトナビル (LPV/r) 錠の薬物動態の検討から妊娠後期に適切に投与量を調整できた一例。第 22 回エイズ学会学術集会，2009.11. 名古屋。
 11. 喜多恒和、田口彰則、綾部琢哉、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、岩田みさ子、佐久本薫、塚原優己、稲葉憲之、和田裕一。わが国における HIV 母子感染 48 例の疫学的・臨床的解析。第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会、東京 2010 年 4 月
 12. 蓮尾泰之、林 公一、明城光三、喜多恒和、塚原優己、稲葉憲之、和田裕一。我が国における HIV 中心とした妊婦性感染症スクリーニング検査普及状況の検討。第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会、東京 2010 年 4 月
 13. 吉田昌史、松田秀雄、長谷川ゆり、吉永洋輔、浅井一彦、川嶋章弘、古谷健一。マルチプレックス分析システムを用いたサイトメガロウイルス感染胎児における炎症性サイトカインの検討。第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会、東京 2010 年 4 月
 14. 浅井一彦、松田秀雄、吉田昌史、吉永洋輔、長谷川ゆり、川嶋章弘、古谷健一。先天性 CMV 感染症胎児に対して胎児腹腔内免疫グロブリン投与を実施した 1 症例。第 46 回周産期・新生児医学会、神戸 2010 年 7 月
 15. 吉田昌史、松田秀雄、長谷川ゆり、吉永洋輔、浅井一彦、川嶋章弘、古谷健一。先天性サイトメガロウイルス感染における胎児治療効果の指標を求めて。第 46 回周産期・新生児医学会、神戸 2010 年 7 月
 16. 吉田昌史、松田秀雄、長谷川ゆり、吉永洋輔、浅井一彦、川嶋章弘、古谷健一。胎児腹腔内免疫グロブリン投与による胎児臍帯血中 IgG 蓄積の証明。第 46 回

- 周産期・新生児医学会、神戸 2010 年 7 月
17. 松田秀雄、吉田昌史、吉永洋輔、長谷川ゆり、浅井一彦、川嶋章弘、川上裕一、古谷健一. 抗サイトメガロウイルス IgM 抗体による妊婦スクリーニングで先天感染胎児を抽出することは難しい. 第 46 回周産期・新生児医学会、神戸 2010 年 7 月
 18. 喜多恒和、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、金子ゆかり、瀬戸裕、大井理恵、小林裕幸、佐久本薫、吉野直人、外川正生、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一. 本邦における HIV 感染妊娠の動向と母子感染予防対策の現状—産婦人科小児科全国調査から—. 第 24 回日本エイズ学会学術集会、東京 2010 年 11 月
 19. 吉野直人、喜多恒和、熊谷晴介、丹野高三、伊藤由子、高橋尚子、外川正生、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一. 病院及び診療所における妊婦 HIV スクリーニング検査実施率. 第 24 回日本エイズ学会学術集会、東京 2010 年 11 月
 20. 谷口晴記、塚原優己、大金美和、山田里佳、辻麻理子、渡邊英恵、源河いくみ、佐野貴子、山田由紀、井上孝実、内山正子、尾崎由和、蓮尾泰之、吉野直人、外川正生、喜多恒和、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一. 「HIV 母子感染予防対策マニュアル」の変遷と第 6 版改訂について. 第 24 回日本エイズ学会学術集会、東京 2010 年 11 月
 21. 外川正生、葛西健郎、國方徹也、山中純子、細川真一、木内英、斎藤昭彦、村松友佳子、前田尚子、尾崎由和、天羽清子、市場博幸、榎本てる子、辻麻理子、吉野直人、喜多恒和、和田裕一. HIV 感染女性から出生した子どもの課題～2009 年度小児科調査より～. 第 24 回日本エイズ学会学術集会、東京 2010 年 11 月
 22. 渋谷剛志、松田秀雄、吉田昌史、吉永洋輔、浅井一彦、渡邊昭夫、宮本守員、古谷健一. 妊娠中 HIV 感染により惹起された血小板減少症に対し HAART 療法が奏功した一例. 第 120 回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会、つくば 2010 年 11 月
 23. 大井理恵、阿部史朗、有澤正義、赤股宜子、河村美玲、榊原咲弥子、奥田亜紀子、小澤克典、砂倉麻央、瀧川逸朗. 在胎週数と母体絨毛膜羊膜炎の程度に基づいて早産児の予後を予測することに関する検討. 日本周産期・新生児医学会、2011.7. 札幌
 24. 喜多恒和、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、佐久本薫、大井理恵、瀬戸裕、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一. HIV 感染妊婦に特化したエイズ拠点病院の再整備に関する提案. 第 63 回日本産婦人科学会学術講演会、2011.8. 大阪
 25. 大井理恵、安藤郷子、浅野真、内川道子、福岡真弓、河村美玲、奥田亜紀子、小澤克典、砂倉麻央、阿部史朗、宮澤豊. 当院に母体搬送された切迫早産症例の転帰に関する検討. 第 63 回日本産科婦人科学会、2011.8. 大阪
 26. 奥田亜紀子、内川道子、山田美貴、浅野真、塚本薫、福岡真弓、赤股宜子、榊原咲弥子、大井理恵、有澤正義、阿部史朗、宮澤豊. 超緊急帝王切開術のマニュアル化. 第 63 回日本産科婦人科学会、2011.8. 大阪
 27. 谷口晴記、塚原優己、山田里佳、井上孝

- 実、蓮尾泰之、林 公一、大島教子、喜多恒和、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。
「HIV 母子感染予防対策マニュアル」第 6 版の概要について。第 63 回日本産婦人科学会学術講演会，2011.8. 大阪
28. 喜多恒和、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、金子ゆかり、瀬戸裕、大井理恵、小林裕幸、佐久本薫、石橋理子、杉浦敦、藤田綾、吉野直人、外川正生、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。わが国の HIV 感染妊婦と母子感染予防対策の現状。第 25 回日本エイズ学会学術集会，2011.11. 東京
29. 吉野直人、喜多恒和、熊谷晴介、丹野高三、伊東由子、高橋尚子、外川正生、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の推移。第 25 回日本エイズ学会学術集会，2011.11. 東京
30. 外川正生、葛西健郎、國方徹也、細谷真一、田中瑞恵、木内 英、齋藤昭彦、前田尚子、尾崎由和、天羽清子、市場博幸、榎本てる子、辻麻理子、武知茉莉亜、乾未来、小林真之、吉野直人、喜多恒和、稲葉憲之、和田裕一。HIV 感染女性から出生した子どもの実態調査と子どもの健康と発達支援。第 25 回日本エイズ学会学術集会，2011.11. 東京
31. 伊藤由子、吉野直人、喜多恒和、熊谷晴介、丹野高三、高橋尚子、外川正生、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。HIV 感染妊婦に関する全国助産所調査。第 25 回日本エイズ学会学術集会，2011.11. 東京
32. 谷口晴記、塚原優己、大金美和、山田里佳、井上孝実、辻麻理子、渡邊英恵、源河いくみ、佐野貴子、内山正子、大島教子、尾崎由和、蓮尾泰之、吉野直人、早川 智、外川正生、喜多恒和、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。HIV 母子感染予防対策マニュアル 第 6 版の改定ポイントと課題について。第 25 回日本エイズ学会学術集会，2011.11. 東京
- 発表その他
1. 太田寛。性行為でうつる感染症 第 1 回。性感染症はなぜ問題なのか？ 高校保健ニュース。第 394 号付録。少年写真新聞社，東京。2011 年 2 月。
 2. 太田寛。性行為でうつる感染症 第 1 回。性感染症はなぜ問題なのか？ 中学保健ニュース。第 1489 号付録。少年写真新聞社，東京。2011 年 2 月。
 3. 太田寛。性行為でうつる感染症 第 2 回。性感染症の予防と治療(上) クラミジア、淋病、H I V。高校保健ニュース。第 395 号付録。少年写真新聞社，東京。2011 年 3 月。
 4. 太田寛。性行為でうつる感染症 第 2 回。性感染症の予防と治療(上) クラミジア、淋病、H I V。中学保健ニュース。第 1490 号付録。少年写真新聞社，東京。2011 年 3 月。

妊婦統合症例番号 (当方記入欄)	
---------------------	--

HIV 母子感染二次調査用紙

主治医氏名					
医療機関名					
妊婦生年月日	西暦	年	月	日	
初診時年齢				歳	
初診時について	初診日	西暦	年	月	
	妊娠週数	週			
	エイズ 関連症状	特になし ・ 症状あり 「症状あり」の場合は具体的な症状をご記入ください。			
	感染経路	性的接触 ・ 薬物使用 ・ 輸血 ・ 母子感染 ・ 不明 ・ その他()			
	感染 判明時期	今回妊娠時 ・ 前回妊娠時 ・ その他の機会() ・ 不明 判明日 西暦 年 月 日			
	診断法	スクリーニング検査 ・ WB 法 ・ ウイルス量測定 ・ 不明			
	初診時の 治療状況	治療なし ・ 治療あり 「治療あり」の場合は治療開始時期・投薬についてなど具体的な内容をご記入ください。 治療開始時期: 西暦 年 月 日 薬剤名()			
	紹介元について	紹介元なし ・ 貴施設内科 ・ 他施設 「他施設」の場合にご記入ください。 紹介元病院名: 紹介日: 西暦 年 月 日 担当医師名:			
妊婦について	国籍 (出生国)	日本 ・ 外国 ・ 不明 「外国籍妊婦」の場合にご記入ください。 国名: 日本滞在期間: 年 か月 / 来日時期: 年 月頃 ビザの有無: あり ・ なし ・ 不明			
	婚姻関係	あり ・ なし ・ 不明			
	医療保険	社保 ・ 国保 ・ 生保 ・ 保険加入なし ・ 不明			
	職業など その他情報				
	パートナーに ついて	国籍	日本 ・ 外国(国名:) ・ 不明		
		HIV感染 について	陽性 ・ 陰性 ・ 不明		
エイズ関連症状: あり ・ なし ・ 不明 「症状あり」の場合は具体的な症状をご記入ください。					
職業など その他情報					

妊娠歴について	(正期産過期産—早産—流産—生児数)		—	—	—
	妊娠歴 ①	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 児の性別: 男児・女児 (出生時体重: g) HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:			
	妊娠歴 ②	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 児の性別: 男児・女児 (出生時体重: g) HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:			
	妊娠歴 ③	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 児の性別: 男児・女児 (出生時体重: g) HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:			
	妊娠歴 ④	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 児の性別: 男児・女児 (出生時体重: g) HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:			
	妊娠歴 ⑤	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 児の性別: 男児・女児 (出生時体重: g) HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:			
子宮がん・その他 性感染症について	スミア	日母・ベセスダ分類()・不明	クラミジア	(-)・(+)	不明
	HBV	(-)・(+)	梅毒	(-)・(+)	不明
	HCV	(-)・(+)	GBS	(-)・(+)	不明
	淋菌	(-)・(+)	その他		

今回の妊娠について

分娩日(転帰日)	西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日)
妊娠転帰	分娩・自然流産・人工妊娠中絶・妊娠中・不明
分娩場所	貴施設・他施設・不明
	「他施設」へ紹介された場合はご記入ください。 紹介先: 紹介日:西暦 年 月 日 担当医師名:

分娩様式	経膣 ・ 緊急帝王切 ・ 選択的帝王切		
	上記の分娩様式を選択した理由		
陣痛について	自然陣痛 ・ 誘発陣痛 ・ 陣痛なし ・ 不明	破水から分娩までの時間	時間 分
破水について	陣痛開始前に自然破水 ・ 陣痛開始後に自然破水 ・ 人工破膜 ・ 不明		
分娩時間	時間 分	アプガースコア	1分: 点 / 5分: 点
羊水混濁	あり ・ なし ・ 不明	羊水感染	あり(起因菌:) ・ なし ・ 不明
分娩時の点滴	AZT 投与 ・ 投与なし ・ その他投薬()		
児について	HIV 感染	感染 ・ 非感染 ・ 判定中 ・ 不明	
	性別	男児 ・ 女児 ・ 不明	出生時体重 g
	母乳	投与あり(期間 か月) ・ 投与なし ・ 不明	
	AZTシロップの投与	投与あり ・ 投与なし ・ その他投薬()	
		投与有りの場合はご記入ください。 投与期間: 生後 日 ・ 週 ~ 日 ・ 週 (mg/日) 副作用: あり ・ なし (症状:) 投与の中止: あり ・ なし (理由:)	

妊婦の治療について

妊娠中の投薬について	投薬あり ・ 投薬なし ・ 不明
	投与有りの場合はご記入ください。 投与期間: 妊娠前から ・ 妊娠 週 ~ 週 薬剤レジメン: AZT(ヒトビル) ・ AZT+3TC(エビビル)+NFV(ビラセフト) ・ AZT+3TC+LPV/RTV(カトラ) ・ その他レジメン() 副作用: あり(症状:) ・ なし ・ 不明
	薬剤変更した場合: 期間(妊娠 週 ~ 週)、薬剤レジメン() 変更した理由: コンプライアンス不良 ・ 治療効果不良 ・ 薬剤耐性出現 ・ 副作用出現 ・ その他()
産後の投薬について	投薬あり ・ 投薬なし ・ 不明
	投与有りの場合はご記入ください。 投与期間: 産後 週 ・ 月 ~ 週 ・ 月 ・ 現在も継続中 薬剤レジメン: AZT(ヒトビル) ・ AZT+3TC(エビビル)+NFV(ビラセフト) ・ AZT+3TC+LPV/RTV(カトラ) ・ その他レジメン() 副作用: あり(症状:) ・ なし ・ 不明
	薬剤変更した場合: 期間(産後 週 ・ 月 ~ 週 ・ 月) 薬剤レジメン() 変更した理由: コンプライアンス不良 ・ 治療効果不良 ・ 薬剤耐性出現 ・ 副作用出現 ・ その他()

薬剤耐性	あり(詳細: _____)・なし・不明・検査未実施
その他 特記事項	

妊婦ラボデータ

妊娠週数		妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月	妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月	妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月	妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月	妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月
採血年月日		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
血算	白血球数(/ μ l)					
	血小板($\times 10^4$ / μ l)					
	リンパ球(%)					
	リンパ球数(/ μ l)					
リンパ球 分画	CD4(%)					
	CD8(%)					
	CD4 数(/ μ l)					
	CD8 数(/ μ l)					
	CD4/8					
ウイルス 量	RNA(コピー/ml)					

最終受診日	西暦 年 月 日 ・ 現在も受診中
予後	変化なし ・ 病状進行 ・ 死亡 ・ 追跡不能 ・ 貴施設内科を受診中 ・ 他施設へ紹介 「他施設」へ紹介された場合はご記入ください。 紹介先: 紹介日:西暦 年 月 日 担当医師名:
その他特記 事項	感染妊婦・パートナー・児を含め、できるだけ多くの情報をご記入ください。

ご協力ありがとうございました

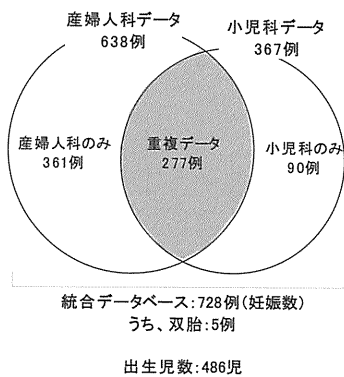


図1 平成23年度産婦人科小児科統合データベースの構成

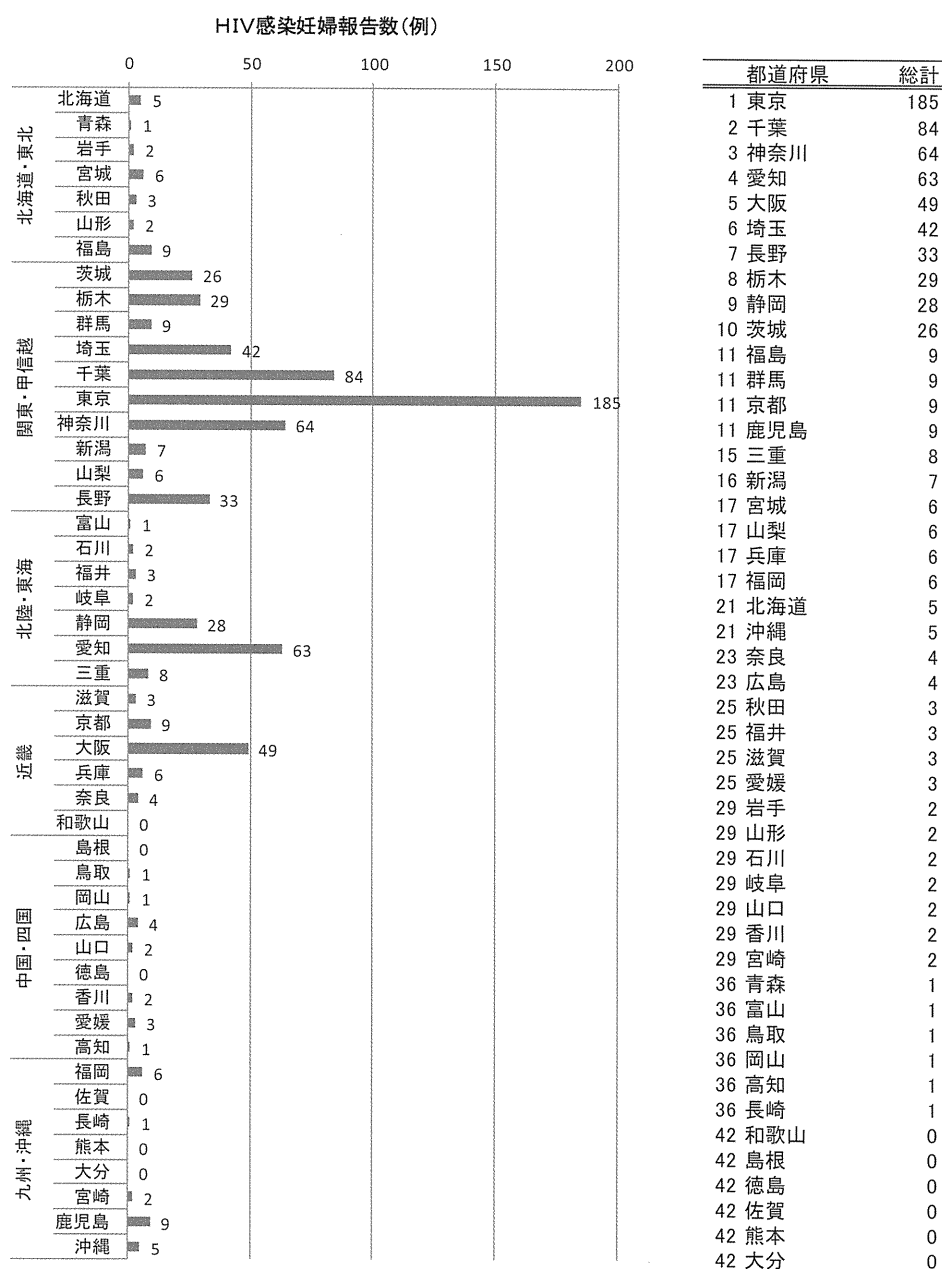


図2 HIV感染妊娠の報告都道府県別分布

表1 HIV感染妊婦の報告都道府県別・年次別

地方ブロック 都道府県	転帰年																							不明	総計	(%)						
	S59 1984	S60 1985	S61 1986	S62 1987	S63 1988	H1 1989	H2 1990	H3 1991	H4 1992	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006				H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	
北海道・東北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	1	2	0	2	3	1	3	0	3	0	2	1	0	0	5	28	3.8%	
北海道											1							1	1				1						1	5	0.7%	
青森													1																	1	1	0.1%
岩手																1														2	2	0.3%
宮城																1			1	1	1	1								6	6	0.8%
秋田																			1											2	3	0.4%
山形																						1								2	2	0.3%
福島													2									1		2		1	1			2	9	1.2%
関東・甲信越	1	0	0	2	1	2	1	4	8	17	13	20	22	25	30	30	26	22	20	20	30	24	30	24	24	16	22	0	51	485	66.6%	
茨城												3	1	2	2	2	1	3	1	1	2	1		2		1			4	26	3.6%	
栃木													1		3	3					1	4	2	2	4	3		2	3	29	4.0%	
群馬														1						1	1	2	1						2	9	1.2%	
埼玉									1	1	3	1		3	3	1	2			1	4	3	3	1	4	4	4	3	42	5.8%		
千葉				1				1	1	4	2	3	9	7	5	6	6	7	4		3	3	2	2	2	3	2	11	84	11.5%		
東京	1			1	1	2	1	2	4	8	4	10	4	8	14	11	8	9	5	12	11	9	11	12	10	4	9	14	185	25.4%		
神奈川								1	1	1		2	1	1	1	5	6	4	3	2	3	2	6	3	3	4	4	11	64	8.8%		
新潟													1			1	1			1	1		1				1			7	1.0%	
山梨									1						2				1					1					1	6	0.8%	
長野											2	2	3	1	1	2	2	1	4	1	2	2	4	1	2	1		2	33	4.5%		
北陸・東海	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	4	5	4	8	6	1	3	4	7	5	3	10	11	7	8	3	2	1	10	107	14.7%	
富山															1															1	1	0.1%
石川																												1	2	2	0.3%	
福井													2																	3	0.4%	
岐阜														1	1								1						2	2	0.3%	
静岡							1					1		2	1		1	3	2	2	1	4	2	1	1	1	1	1	2	28	3.8%	
愛知							1		2			3	3		5	5		2	1	5	3	2	5	7	5	6	1	1	6	63	8.7%	
三重											1		1	1									2	1		1			1	8	1.1%	
近畿	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	1	4	4	4	8	2	3	5	7	6	4	3	3	3	1	0	5	71	9.8%	
滋賀														1						1			1							3	0.4%	
京都											1	1		1	1		1				1							1	1	9	1.2%	
大阪								1	1	1	1	2		2	2	3	6		2	4	6	6	2	2	2	3		3	49	6.7%		
兵庫																	1	2	1						1				1	6	0.8%	
奈良															2									1	1					4	0.5%	
和歌山																														0	0.0%	
中国・四国	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2	0	2	0	1	2	1	0	2	0	0	0	0	14	1.9%	
島根																														0	0.0%	
鳥取																														1	1	0.1%
岡山																														1	1	0.1%
広島																	1			1			1							4	0.5%	
山口																							1	1						2	0.3%	
徳島																														0	0.0%	
香川																1				1										2	0.3%	
愛媛															1															3	0.4%	
高知				1																										1	1	0.1%
九州・沖縄	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	4	2	1	1	1	0	0	0	2	2	1	1	1	0	2	23	3.2%
福岡								1								2	1	1					1								6	0.8%
佐賀																														0	0.0%	
長崎																													1	1	0.1%	
熊本																														0	0.0%	
大分																														0	0.0%	
宮崎																														2	0.3%	
鹿児島													1		1	1	1			1	1			1			1		1	9	1.2%	
沖縄								1								1			1							1	1			5	0.7%	
全国	1	0	0	3	1	4	2	8	9	20	20	28	31	39	42	42	41	32	36	32	44	42	51	36	40	24	26	1	73	728	100.0%	

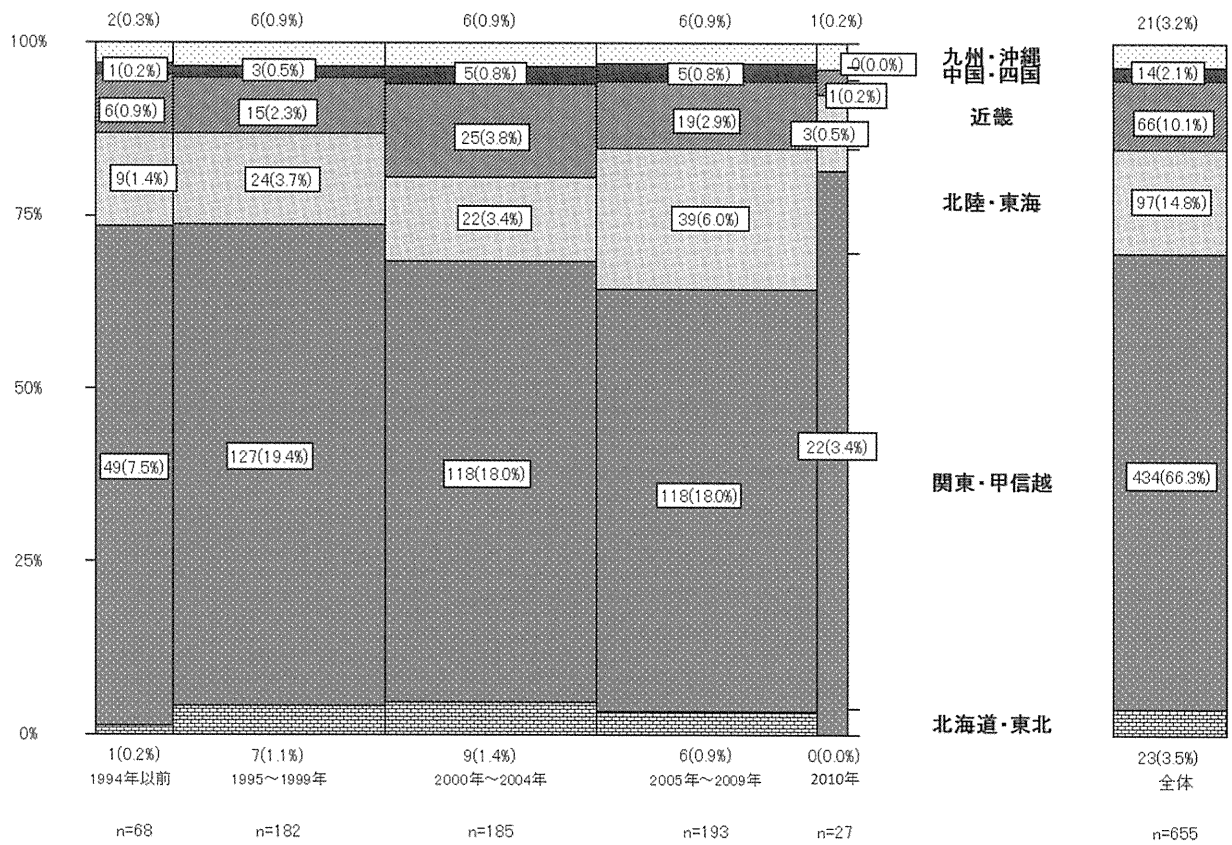
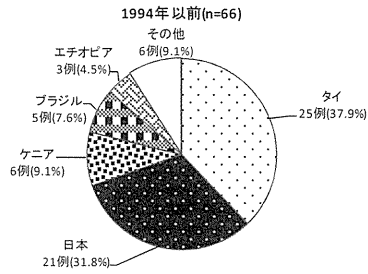


図3 HIV感染妊婦のブロック別占有率の年次別変動

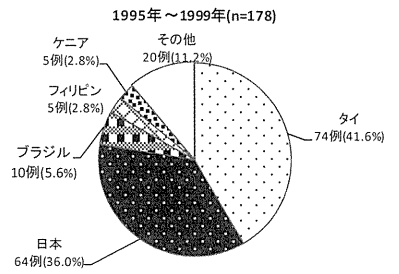
表 2 HIV 感染妊婦国籍別・年次別分布

地域 国籍	転帰年																							不明	総計	(%)									
	S59 1984	S60 1985	S61 1986	S62 1987	S63 1988	H1 1989	H2 1990	H3 1991	H4 1992	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006				H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011				
日本	0	0	0	3	1	2	2	2	2	4	5	6	15	10	14	19	18	11	15	10	17	19	25	17	17	11	11	1	23	280	38.5%				
アジア	0	0	0	0	0	0	0	3	3	12	10	17	13	17	22	18	16	12	5	15	21	14	17	13	16	6	10	0	29	289	39.7%				
タイ								2	3	11	9	11	13	15	21	14	14	9	4	10	9	11	8	4	6	1	4		14	193	26.5%				
フィリピン															3						2	6		2	2	1		1	9	30	4.1%				
インドネシア																													2	16	2.2%				
中国											1									2	3	1			1	1			1	14	1.9%				
ベトナム													1			1							1	1	1	2	3		1	12	1.6%				
ミャンマー								1					1										1						1	7	1.0%				
カンボジア											1																			2	4	0.5%			
ウクライナ																								1	2						3	0.4%			
ラオス																								1	2						3	0.4%			
韓国																					1	1									3	0.4%			
ロシア																					1										2	0.3%			
インド														1																	1	0.1%			
マレーシア																								1							1	0.1%			
アフリカ	1	0	0	0	0	2	0	3	2	1	3	4	0	5	3	2	3	3	8	4	1	4	3	2	3	4	4	0	4	69	9.5%				
ケニア	1							2	1	1	1	1			2	1	1	2	1	2			1	1						1	18	2.5%			
タンザニア																															1	14	1.9%		
ウガンダ																																8	1.1%		
エチオピア																																7	1.0%		
カメルーン																																6	0.8%		
ザンビア																																6	0.8%		
ガーナ																																2	0.3%		
アフリカ																																1	0.1%		
ジンバブエ																																1	0.1%		
ナイジェリア																																1	0.1%		
ブルンディ																																1	0.1%		
マラウィ																																1	0.1%		
ルワンダ																																1	0.1%		
レソト王国																																1	0.1%		
中南米	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	2	5	3	2	4	5	6	2	3	5	6	2	3	3	1	0	5	63	8.7%				
ブラジル																																5	55	7.6%	
ペルー																																4	0.5%		
ボリビア																																2	0.3%		
アルゼンチン																																1	0.1%		
ホンジュラス																																1	0.1%		
アメリカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1%		
欧州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0.4%		
ルーマニア																																	1	2	0.3%
イギリス																																	1	0.1%	
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	1	0	1	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	10	23	3.2%			
総計	1	0	0	3	1	4	2	8	9	20	20	28	31	39	42	42	41	32	36	32	44	42	51	36	40	24	26	1	73	728	100.0%				

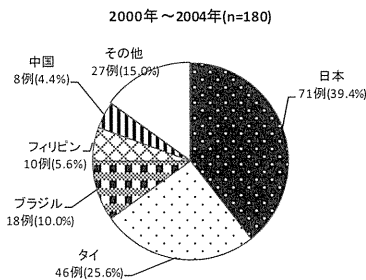
1994年以前	
国籍	症例数
タイ	25
日本	21
ケニア	6
ブラジル	5
エチオピア	3
タンザニア	2
中国	1
ミャンマー	1
カンボジア	1
ジンバブエ	1
合計	66



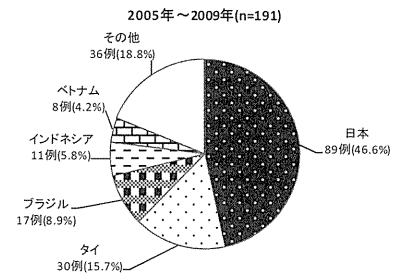
1995～1999年	
国籍	症例数
タイ	74
日本	64
ブラジル	10
フィリピン	5
ケニア	5
ベトナム	3
ウガンダ	3
ミャンマー	2
タンザニア	2
ボリビア	2
インドネシア	1
中国	1
インド	1
エチオピア	1
ザンビア	1
ブルンディ	1
ルワンダ	1
ペルー	1
合計	178



2000～2004年	
国籍	症例数
日本	71
タイ	46
ブラジル	18
フィリピン	10
中国	8
ケニア	5
タンザニア	5
ザンビア	3
ウガンダ	2
ガーナ	2
ミャンマー	1
ロシア	1
マレーシア	1
エチオピア	1
マラウイ	1
ペルー	1
アルゼンチン	1
イギリス	1
合計	180



2005～2009年	
国籍	症例数
日本	89
タイ	30
ブラジル	17
インドネシア	11
ベトナム	8
フィリピン	5
タンザニア	5
中国	3
ウクライナ	3
カメルーン	3
ミャンマー	2
ラオス	2
ケニア	2
ウガンダ	2
エチオピア	2
カンボジア	1
韓国	1
ナイジェリア	1
レソト王国	1
ペルー	1
ホンジュラス	1
ルーマニア	1
合計	191



2010年	
国籍	症例数
日本	12
タイ	4
カメルーン	3
インドネシア	2
フィリピン	1
ミャンマー	1
ラオス	1
ロシア	1
ガーナ	1
ペルー	1
合計	27

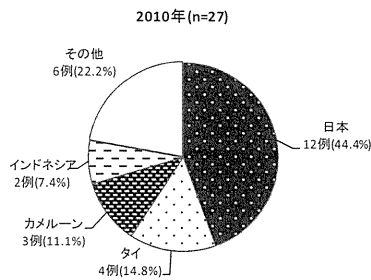


図4 HIV感染妊婦国籍の変動

表3 パートナーの国籍別症例数および HIV 感染割合

地域・国籍	合計		感染		非感染	不明
日本	344	47.3%	81	31.8%	174	89
アジア	53	7.3%	23	67.6%	11	19
タイ	23	3.2%	9	64.3%	5	9
インドネシア	10	1.4%	6	75.0%	2	2
ベトナム	6	0.8%	2	50.0%	2	2
バングラデシュ	2	0.3%	1	50.0%	1	
フィリピン	2	0.3%	1	100.0%		1
マレーシア	2	0.3%	2	100.0%		
韓国	2	0.3%				2
インド	1	0.1%	1	100.0%		
ウクライナ	1	0.1%				1
カンボジア	1	0.1%				1
パキスタン	1	0.1%			1	
ミャンマー	1	0.1%	1	100.0%		
中国	1	0.1%				1
中東	3	0.4%	0	0.0%	2	1
イラン	2	0.3%			2	
イラク	1	0.1%				1
アフリカ	51	7.0%	30	71.4%	12	9
ナイジェリア	13	1.8%	8	61.5%	5	
ケニア	10	1.4%	8	80.0%	2	
ガーナ	8	1.1%	4	66.7%	2	2
ウガンダ	5	0.7%	4	100.0%		1
タンザニア	4	0.5%	2	50.0%	2	
エジプト	3	0.4%	1	50.0%	1	1
カメルーン	2	0.3%	1	100.0%		1
ジンバブエ	2	0.3%	1	100.0%		1
エチオピア	1	0.1%				1
ザイール	1	0.1%	1	100.0%		
セネガル	1	0.1%				1
マラウイ	1	0.1%				1
中南米	53	7.3%	20	60.6%	13	20
ブラジル	43	5.9%	16	55.2%	13	14
ペルー	6	0.8%	3	100.0%		3
ボリビア	2	0.3%				2
ドミニカ	1	0.1%	1	100.0%		
メキシコ	1	0.1%				1
北米	10	1.4%	3	50.0%	3	4
アメリカ	8	1.1%	3	60.0%	2	3
カナダ	2	0.3%			1	1
欧州	2	0.3%	1	100.0%	0	1
イタリア	1	0.1%				1
ベルギー	1	0.1%	1	100.0%		
不明	212	29.1%	10	71.4%	4	198
合計	728	100.0%	168	43.4%	219	341

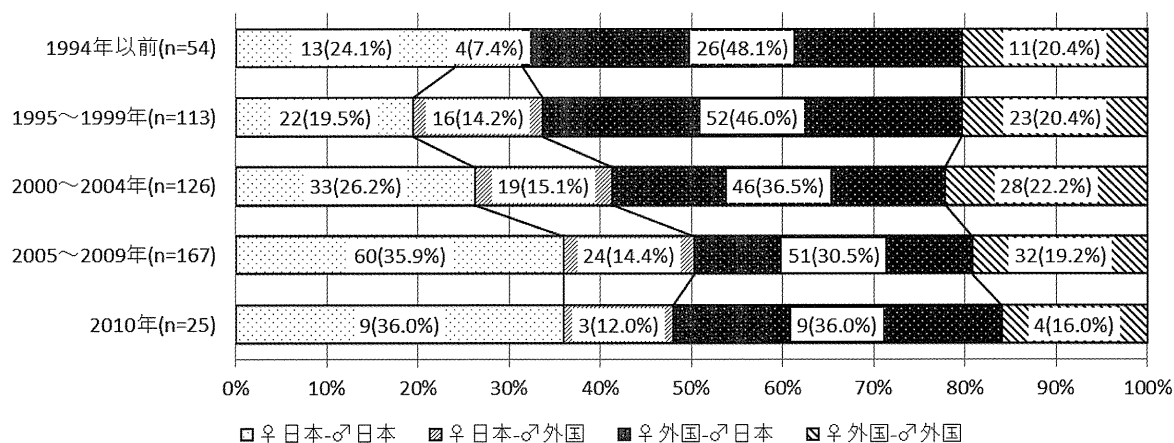


図5 HIV 感染妊婦とパートナーの国籍組み合わせ別変動

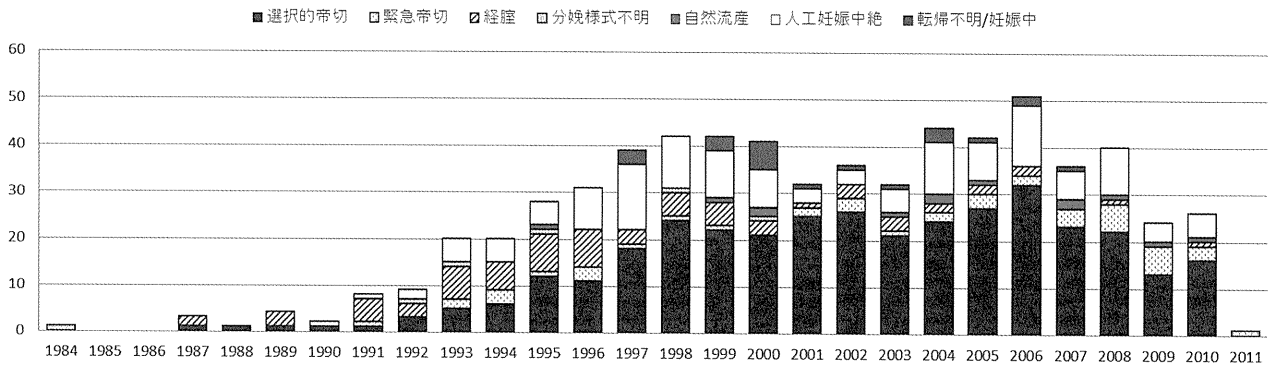


図6 HIV感染妊娠の妊娠転帰別・年次別変動

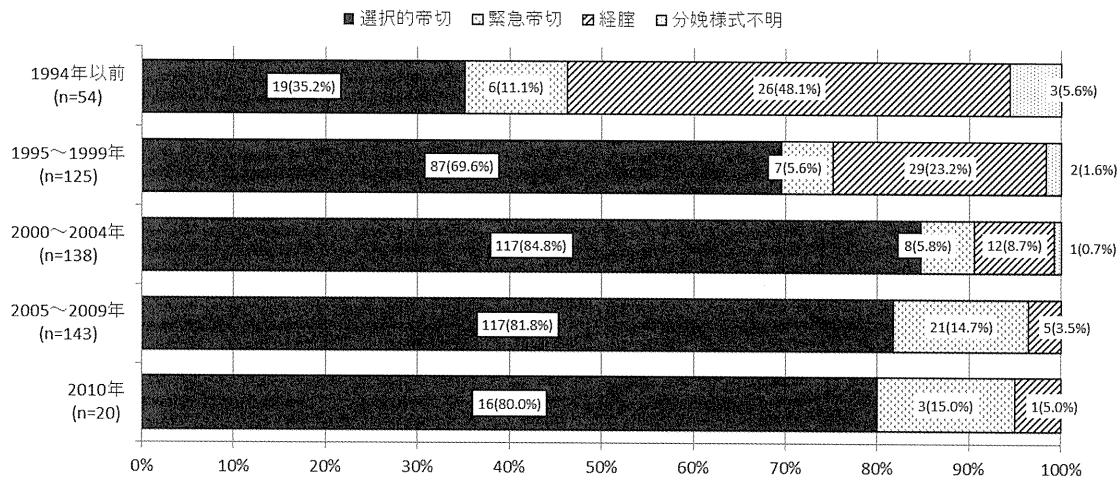


図7 分娩様式別変動

表4 緊急帯切症例における HIV 感染判明時期と緊急帯切理由

判明時期	予定帯切→緊急帯切 切迫早産等		児の異常 NRFS・IUGR等		分娩直前に感染判明 飛び込み分娩等		不明		合計 (%)	
	症例数	割合	症例数	割合	症例数	割合	症例数	割合	症例数	割合
分娩前	28	62.2%	3	6.7%	2	4.4%	1	2.2%	34	75.6%
分娩直前	1	2.2%			2	4.4%			3	6.7%
分娩直後					1	2.2%			1	2.2%
分娩後その他機会	1	2.2%					2	4.4%	3	6.7%
不明							4	8.9%	4	8.9%
合計	30	66.7%	3	6.7%	5	11.1%	7	15.6%	45	100.0%

表5 在胎週数と出生児体重の平均

		選択的帯切			緊急帯切			経膣			分娩様式不明	自然流産	人工妊娠中絶 (%)	転帰不明
		症例数	在胎週数	児体重	症例数	在胎週数	児体重	症例数	在胎週数	児体重				
1994年以前	平均	19	36w6d	2,743	6	36w6d	2,571	26	37w6d	2,811.5	3	14	20.6%	
	標準偏差		2.0d	475		2.3d	556		3.0d	577				
1995~1999年	平均	87	36w3d	2,611	7	35w4d	2,498	29	38w6d	2,999	2	2	49	26.9%
	標準偏差		1.8d	418		2.3d	577		1.4d	362				6
2000~2004年	平均	117	36w3d	2,606	8	35w6d	2,544	12	37w4d	2,936	1	5	30	16.2%
	標準偏差		0.9d	326		1.9d	480		2.6d	407				12
2005~2009年	平均	117	36w6d	2,601	21	33w5d	2,160	5	37w4d	2,636		5	41	21.2%
	標準偏差		0.7d	346		3.5d	735		1.4d	330				4
2010年	平均	16	36w3d	2,649	3	34w1d	2,082	1	39w2d	3,328		1	5	19.2%
	標準偏差		1.5d	410		1.4d	158		0.0d	0				
総計	平均	356	36w4d	2,615	45	34w6d	2,341	73	38w2d	2,904	6	13	139	21.3%
	標準偏差		1.3d	371		3.0d	640		2.3d	463				22

転帰年不明 71例、妊娠中3例を除く

表 6 分娩様式・妊娠転帰別の母子感染

分娩様式 ・妊娠転帰	母子感染			合計	%
	感染	非感染	不明		
選択的帝王切	9	300	47	356	48.9%
緊急帝王切	5	36	5	46	6.3%
経膣	32	32	9	73	10.0%
分娩様式不明	5	1		6	0.8%
自然流産				13	1.8%
人工妊娠中絶				146	20.1%
妊娠中				3	0.4%
妊娠転帰不明				85	11.7%
総計	51	369	61	728	100.0%

表 7 年次別妊娠転帰と母子感染

転帰年	妊娠数	分娩数 分娩/妊娠	選択的帝王切				緊急帝王切				経膣				分娩様式不明			自然流産	人工妊娠中絶 中絶/妊娠	転帰不明	妊娠中
			分娩数	選択/分娩	感染	非感染	分娩数	緊急/分娩	感染	非感染	分娩数	経膣/分娩	感染	非感染	分娩数	感染	非感染				
S59 1984	1	1	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-		
S60 1985	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
S61 1986	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
S62 1987	3	3	100.0%	1	33.3%	1	-	-	-	2	66.7%	1	-	-	-	-	-	-	-		
S63 1988	1	1	100.0%	1	100.0%	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
H1 1989	4	4	100.0%	1	25.0%	1	-	-	-	3	75.0%	-	-	-	-	-	-	-	-		
H2 1990	3	2	66.7%	1	50.0%	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	33.3%	-	-		
H3 1991	9	8	88.9%	1	12.5%	1	12.5%	1	12.5%	5	62.5%	3	1	1	1	1	11.1%	-	-		
H4 1992	8	6	75.0%	3	50.0%	3	-	-	-	3	50.0%	2	1	-	-	2	25.0%	-	-		
H5 1993	20	15	75.0%	5	33.3%	1	4	2	13.3%	1	7	46.7%	4	2	1	1	5	25.0%	-		
H6 1994	20	15	75.0%	6	40.0%	6	3	20.0%	1	2	6	40.0%	3	3	-	-	5	25.0%	-		
H7 1995	27	21	77.8%	12	57.1%	2	9	1	4.8%	1	8	38.1%	6	2	-	1	5	18.5%	-		
H8 1996	32	23	71.9%	11	47.8%	11	3	13.0%	1	2	8	34.8%	2	5	1	1	9	28.1%	-		
H9 1997	39	22	56.4%	18	81.8%	2	15	1	4.5%	1	3	13.6%	2	1	-	-	14	35.9%	3		
H10 1998	42	31	73.8%	24	77.4%	19	1	3.2%	1	-	5	16.1%	2	3	1	1	11	26.2%	-		
H11 1999	42	28	66.7%	22	78.6%	21	1	3.6%	-	1	5	17.9%	2	8	-	1	10	23.8%	3		
H12 2000	40	24	60.0%	21	87.5%	1	18	-	-	-	3	12.5%	2	1	-	2	8	20.0%	6		
H13 2001	32	28	87.5%	25	89.3%	23	2	7.1%	-	2	1	3.6%	-	1	-	-	3	9.4%	1		
H14 2002	36	32	88.9%	26	81.3%	20	3	9.4%	-	3	3	9.4%	1	2	-	-	3	8.3%	1		
H15 2003	32	25	78.1%	21	84.0%	18	1	4.0%	-	1	3	12.0%	-	3	-	1	5	15.6%	1		
H16 2004	44	28	63.6%	24	85.7%	22	2	7.1%	-	1	2	7.1%	-	2	-	2	11	25.0%	3		
H17 2005	42	32	76.2%	27	84.4%	1	23	3	9.4%	3	2	6.3%	-	1	-	1	8	19.0%	1		
H18 2006	51	36	70.8%	32	88.9%	27	2	5.6%	-	2	2	5.6%	1	1	-	-	13	25.5%	2		
H19 2007	36	27	75.0%	23	85.2%	18	4	14.8%	-	3	-	-	-	-	-	2	6	16.7%	1		
H20 2008	40	29	72.5%	22	75.9%	17	6	20.7%	-	6	1	3.4%	-	-	-	1	10	25.0%	-		
H21 2009	24	19	79.2%	13	68.4%	10	6	31.6%	1	5	-	-	-	-	-	1	4	16.7%	-		
H22 2010	26	20	76.9%	16	80.0%	1	12	3	15.0%	3	1	5.0%	1	-	-	1	5	19.2%	-		
H23 2011	1	1	100.0%	-	-	-	1	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
不明	73	0	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	9.6%	63	3	
合計	728	481		356	9	300	46	5	36	73	32	32	6	5	1	13	146		85	3	

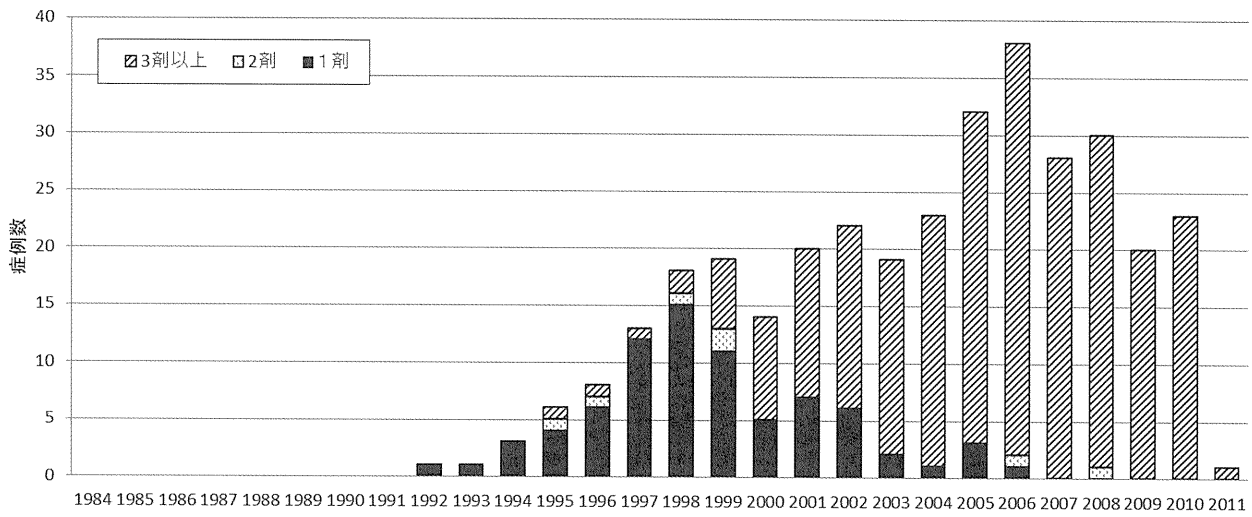


図8 抗ウイルス薬のレジメン数の年次別推移

表8 年次別抗ウイルス薬のレジメン

薬剤数・レジメン	転帰年																							不明	総計	(%)												
	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18				H19	H20	H21	H22	H23							
1剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	4	6	12	15	11	5	7	6	2	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	78	10.7%
AZT										1	1	3	4	6	12	15	11	5	7	6	2	1	3	1												0	78	10.7%
2剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1.0%	
AZT+3TC												1				1	2																			0	4	0.5%
AZT+ddI													1											1		1									0	3	0.4%	
3剤以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	6	9	13	16	16	22	29	36	28	29	20	23	1	3	255	35.0%							
AZT+3TC+NFV															2	2	5	7	7	6	14	12	23	13	3										96	13.2%		
AZT+3TC+LPV/RTV																			1	3	1	4	5	7	18	14	10	1	2	66	9.1%							
d4T+3TC+NFV																	2		1	3	3	3													13	1.8%		
その他(32種類)													1				1	3	3	5	2	2	7	6	4	7	6	6							53	7.3%		
レジメン変更(全て3剤以上へ)																	1	1	3	2	2	2	3	2	4	1	0	5						1	27	3.7%		
投与について記載なし・不明	1	0	0	3	1	4	2	8	8	19	17	22	23	27	24	23	27	12	14	14	21	10	13	8	10	4	3	0	70	388	53.3%							
合計	1	0	0	3	1	4	2	8	9	20	20	28	31	39	42	42	41	32	36	32	44	42	51	36	40	24	26	1	73	728	100.0%							

表9 抗ウイルス薬投与による血中ウイルス量の変化

薬剤数	1/100以下へ減少		1/10以下へ減少		やや減少		感度未滿維持		増加		総計	
単剤	0	0.0%	5	16.1%	16	51.6%	4	12.9%	6	19.4%	31	100.0%
2剤	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
3剤以上	73	40.8%	48	26.8%	13	7.3%	41	22.9%	4	2.2%	179	100.0%
合計	73	34.6%	53	25.1%	30	14.2%	45	21.3%	10	4.7%	211	100.0%

表10 分娩様式別母子感染率 (産婦人科データベース)

分娩様式	非感染	感染※	母子感染率
選択的帝切	264	2	0.75%
緊急帝切	32	1	3.03%
経膣	23	7	23.33%
合計	319	10	3.04%

※産婦人科調査からのデータで見の異常等により分娩後に母親のHIV感染が判明した症例を除く

表 11 HIV 感染判明時期・妊娠転帰別母子感染率（平成 23 年度統合データベース）

感染判明時期 ・妊娠転帰	合計	母子感染			母子感染率	
		感染	非感染	不明		
妊娠前	218	3	127	21	2.3%	
選択的帝切	125	57.3%	1	109	15	0.9%
緊急帝切	16	7.3%		12	4	0.0%
経膣	9	4.1%	2	5	2	28.6%
分娩様式不明	1	0.5%		1		0.0%
自然流産	6	2.8%				
人工妊娠中絶	53	24.3%				
妊娠中	2	0.9%				
転帰不明	6	2.8%				
今回妊娠時	308	6	157	26	3.7%	
選択的帝切	160	51.9%	4	134	22	2.9%
緊急帝切	19	6.2%		18	1	0.0%
経膣	9	2.9%	1	5	3	16.7%
分娩様式不明	1	0.3%	1			100.0%
自然流産	5	1.6%				
人工妊娠中絶	72	23.4%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	42	13.6%				
不明(妊娠中管理あり)	44		29	5	0.0%	
選択的帝切	32	72.7%		27	5	0.0%
緊急帝切	2	4.5%		2		0.0%
経膣	0	0.0%				
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
人工妊娠中絶	7	15.9%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	3	6.8%				
分娩直前	17		1	14	2	6.7%
選択的帝切	6	35.3%		4	2	0.0%
緊急帝切	3	17.6%		3		0.0%
経膣	8	47.1%	1	7		12.5%
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
分娩直後	12		6	3	3	66.7%
選択的帝切	0	0.0%				
緊急帝切	1	8.3%	1			100.0%
経膣	11	91.7%	5	3	3	62.5%
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
児から判明	18		18			100.0%
選択的帝切	2	11.1%	2			100.0%
緊急帝切	2	11.1%	2			100.0%
経膣	14	77.8%	14			100.0%
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
分娩後その他機会	17		9	7		56.3%
選択的帝切	1	5.9%	1			100.0%
緊急帝切	1	5.9%		1		0.0%
経膣	12	70.6%	6	6		50.0%
分娩様式不明	2	11.8%	2			100.0%
自然流産	1	5.9%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
不明	94		8	32	4	20.0%
選択的帝切	30	31.9%	1	26	3	3.7%
緊急帝切	2	2.1%	2			100.0%
経膣	10	10.6%	3	6	1	33.3%
分娩様式不明	2	2.1%	2			100.0%
人工妊娠中絶	14	14.9%				
自然流産	1	1.1%				
妊娠中	1	1.1%				
転帰不明	34	36.2%				
合計	728		51	369	61	12.1%

※分娩直前は
分娩前1週間以内、
分娩直後は
分娩後2日以内と定義した